

震災10年神戸からの発信

「KOBEボランティア交流祭」に参加

食6一文 堀内 昭

阪神・淡路大震災当時には「ボランティア元年」といわれたように、150万人ものボランティアが全国から神戸の地に駆けつけて下さり、言葉や形に表せない協力・援助を受けました。

そこで10年をひとつの契機として、ボランティアグループやNPO等が中心となって、①震災で学んだ「命の大切さ」「絆の大切さ」「感謝の大切さ」を再認識し、②いま一度震災の経験や教訓を踏まえて、震災から何を学んだかを「ボランティア」という視点から検証する。

③ボランティアが共に「出会い」「再会」「交流」する場を設けるということで、被災地神戸からボランティアの発展・活動を国内外に発信することを目的に8月27、28日の両日「KOBE ボランティア交流祭」が開催されました。グループ わ は他の団体と共に実行委員会にも参加しました。

会場はクリスタルホール、デュオコウベ、スペースシアター、こべっこランドの4カ所で行われました。クリスタルホールでのオープニング開会式は黙禱に始まり、引き続き震災レクイエム組曲「あれから10年」を混声合唱団コーロKSCが、震災の悼みから未来へのはばたきを歌いました。各会場では、市内各団体などと共にグループわ、シルバーカレッジの各グループが様々な演技で、神戸が元気に復興している



組曲「あれから10年」を合唱するコーロKSCの皆さん

ことを発信しました。豊岡、出石、小千谷など水害、地震など最近被害を受けたところからも物産展の参加があり、大いに賑わいました。次のグループの方々に参加して頂きました。ご協力くださいました皆

様、本当に有難うございました。
・混声合唱団コーロKSC
・銭太鼓「楽遊クラブ銀雅」
・紙芝居「童とともに」
・「木工グループ」
・「一寸奉仕」
・「茶道グループ」
・有馬観光ガイドグループ

老老の慰問

音4一文 垣尾一志

全国ミュージックベル合奏コンテストで、銅賞を受賞した「ディサービス塩北」チームに、近隣の老人クラブから9月19日の敬老の日の催しに、出演依頼があった。

すわ一大事と、30数名のメンバーは、それから猛特訓で、老が老を慰問する形となった。以前舞子ビラで出演したときと同じユニホームスタイルで、緊張のひとつき…。なかには孫の応援もあって、演奏が終わって盛大な拍手。

ホッとして家に戻り、家族にねぎらいの声をかけられて、改めて健康に恵まれ、自己実現の場を得たことに感謝したというのが、大多数の皆さんの一日でした。

季節の草花 ②

生8一文 久保 知彦

キンミスヒキ・ワレモコウ

散歩道のひとつである白川の村からしあわせの村に向かう道には、秋になるとハギ、クズ、ススキなど色々な花が咲き始めます。これらの中でひっそりと咲いているのが、キンミスヒキでありワレモコウです。

キンミスヒキ（バラ科）は、紅白の花をつけるミスヒキ（タデ科）にたいして五弁の黄色い花びらをもった小さな花を細長い穂状に付けることからその名があります。名はミスヒキでもまったく違った仲間です。困ることは、花の散ったあとのがく片が衣にくっ

付くことで要注意です。一方、ワレモコウ（バラ科）は「吾亦紅」とも書きます。細くしなやかにのびた枝先に暗紅色のかわいい花をつけるのですが、花という感じがしないのは何故でしょう。それは、花びらが無く、がく片だけの集まりだからです。

この花もひっそりと咲いています。このあたりが日本人好みの花でもある理由でしょうか。花の色は関東や関西あたりでは濃い色で、北のほうに行くにしたがい紅色が鮮やかになるそうです。



キンミスヒキ